第3節　救急活動の現況

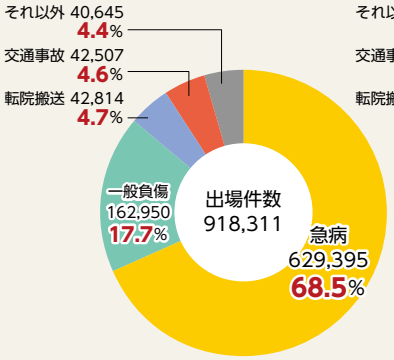
トピックス 18～21ページ

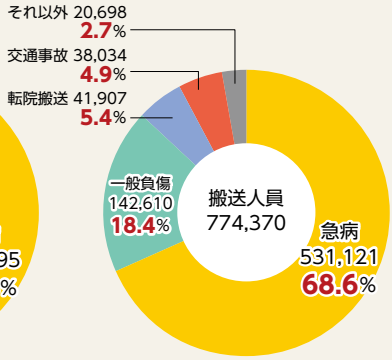
～救急出場の状況と「#7119」の有効活用～

● 事故種別救急活動状況

区　分	総数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
出場件数（件）	918,311	42,507	3,514	5,414	14	568	5,518
搬送人員（人）	774,370	38,034	618	5,329	5	259	5,399

● 救急出場件数の事故種別の内訳





● 隊別出場件数上位 10 隊【件】

救急隊名	件　数	1 日平均
大 久 保 救 急	4,639	12.7
世 田 谷 救 急	4,185	11.5
芝　救　急	4,098	11.2
新宿御苑第 2 救急	4,075	11.2
城 東 第 2 救 急	4,073	11.2
戸　塚　救　急	4,038	11.1
八王子第 2 救急	4,023	11.0
新宿御苑第 1 救急	4,019	11.0
神　田　救　急	4,008	11.0
日 本 橋 救 急	3,988	10.9

● 救護人員　【人】

区　分	救　護　人　員		
	総　数	搬　送	現場処置
令 和 5 年	775,669	774,370	1,299
令 和 4 年	710,381	708,695	1,686
増　減　数	65,288	65,675	▲ 387
増　減　率	9.2%	9.3%	▲ 23.0%

● 高齢者搬送人員　【人】

	65 歳以上計	65 歳～ 74 歳	75 歳以上
令 和 5 年	403,813	90,860	312,953
令 和 4 年	376,868	88,116	288,752
増　減　数	26,945	2,744	24,201
増　減　率	7.1%	3.1%	8.4%

● 出場件数の前年比較　【件】

区　分	総　数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
令 和 5 年	918,311	42,507	3,514	5,414	14	568	5,518
令 和 4 年	872,075	41,101	3,354	4,616	8	565	5,241
増　減　数	46,236	1,406	160	798	6	3	277
増　減　率	5.3%	3.4%	4.8%	17.3%	75.0%	0.5%	5.3%

● 搬送人員数の前年比較　【人】

区分	総数	交通事故	火災事故	運動競技事故	自然災害事故	水難事故	労働災害事故
令 和 5 年	774,370	38,034	618	5,329	5	259	5,399
令 和 4 年	708,695	36,662	584	4,547	4	261	5,118
増　減　数	65,675	1,372	34	782	1	▲ 2	281
増　減　率	9.3%	3.7%	5.8%	17.2%	25.0%	▲ 0.8%	5.5%

※割合、構成比（率）、増減率等の割合を示す数値及び指数を示す数値については、少数第2位又は3位を四捨五入しています。したがって、内訳の合計は必ずしも総数に一致しません。

1　救急出場の状況

（1）救急活動総括表

■ 図表1－3－1　救急活動総括表

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送	資器材等輸送	医師搬送	その他
162,950	7,332	5,475	629,395	42,814	618	168	12,024
142,610	5,081	4,007	531,121	41,907	—	—	—

● 程度別搬送人員　【人】

区　分	搬送人員	重症以上	中 等 症	軽　症
総　　数	774,370	54,923	299,724	419,723
	100.0%	7.1%	38.7%	54.2%
急　　病	531,121	39,978	211,783	279,360
	100.0%	7.5%	39.9%	52.6%
一般負傷	142,610	3,263	45,737	93,610
	100.0%	2.3%	32.1%	65.6%
転院搬送	41,907	8,416	29,802	3,689
	100.0%	20.1%	71.1%	8.8%
交通事故	38,034	1,118	7,045	29,871
	100.0%	2.9%	18.5%	78.5%
それ以外	20,698	2,148	5,357	13,193
	100.0%	10.4%	25.9%	63.7%

● 回転翼航空機による救急活動状況【件】

区　分	件　数
令 和 5 年	336
令 和 4 年	306
増　減　数	30

● 救急出場件数が 3,500 件以上の救急隊【隊】

区　分	隊　数
令 和 5 年	89
令 和 4 年	42
増　減　数	47

● 救急活動状況

区　分	救急隊数※	1 日平均	1 隊平均※	1 隊 1 日平均※	出場頻度
令 和 5 年	274 隊	2,516 件	3,352 件	9.2 件	34 秒に 1 回
令 和 4 年	271 隊	2,389 件	3,218 件	8.8 件	36 秒に 1 回

※各年の救急隊数はデイタイム救急を含まない12月31日現在の隊数です。

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送	資器材等輸送	医師搬送	その他
162,950	7,332	5,475	629,395	42,814	618	168	12,024
150,587	6,664	5,257	599,469	42,990	712	181	11,330
12,363	668	218	29,926	▲ 176	▲ 94	▲ 13	694
8.2%	10.0%	4.1%	5.0%	▲ 0.4%	▲ 13.2%	▲ 7.2%	6.1%

一般負傷	自損行為	加害	急病	転院搬送
142,610	5,081	4,007	531,121	41,907
129,783	4,525	3,711	482,080	41,420
12,827	556	296	49,041	487
9.9%	12.3%	8.0%	10.2%	1.2%

・死亡 …… 初診時死亡が確認されたもの
・重篤 …… 生命の危険が切迫しているもの
・重症 …… 生命の危険が強いと認められたもの
・中等症 … 生命の危険はないが入院を要するもの
・軽症 …… 軽易で入院を要しないもの

（2）過去５年間の推移

令和元年から令和５年まで過去５年間の東京消防庁の救急出場件数の推移及び令和４年中における全国の出場件数は次のとおりです（令和５年４月１日現在、全国救急隊数 5,359 隊、救急車台数（非常用含む）6,591 台）。

■ 図表1－3－2　過去５年間の出場件数等の推移

区　　分	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年	全国（R4）
出場件数（件）	825,929	720,965	743,703	872,075	918,311	7,229,572
１日平均件数（件）	2,263	1,970	2,038	2,389	2,516	19,807
出場頻度（秒）	38	44	42	36	34	4.4

（3）日別最多出場件数

夏季における日別出場件数の上位５位のうち、第４位が令和５年の記録に更新されました。それ以外では、冬季に出場件数が増加する傾向があります。（図表1－3－3、４）

■ 図表1－3－3　日別上位出場件数（夏季５位、夏季以外５位）

順位	年月日	出場件数（件）	熱中症疑い	最高気温
1	平成 30 年７月 23 日（月）	3,382	熱中症疑い（411 人）	39.0℃
2	令和４年７月１日（金）	3,274	熱中症疑い（390 人）	37.0℃
3	令和４年７月２日（土）	3,188	熱中症疑い（321 人）	35.2℃
4	令和５年７月 18 日（火）	3,170	熱中症疑い（276 人）	37.5℃
5	令和４年６月 30 日（木）	3,150	熱中症疑い（404 人）	36.4℃

順位	年月日	出場件数（件）	気候の特徴
1	令和４年１月７日（金）	3,140	最低気温 -3.5℃（積雪 9cm）
2	令和５年 12 月 30 日（土）	2,989	最低気温 4.4℃（積雪 0cm）
3	令和５年 12 月 28 日（木）	2,964	最低気温 4.4℃（積雪 0cm）
4	令和５年 12 月 27 日（水）	2,963	最低気温 4.3℃（積雪 0cm）
5	令和５年 12 月 29 日（金）	2,932	最低気温 2.2℃（積雪 0cm）
5	令和５年 12 月 31 日（日）	2,932	最低気温 5.8℃（積雪 0cm）

コラム

熱中症の予防対策を！

高温・多湿・直射日光を避ける！

エアコン等を利用して、室内の温度を調整しましょう。また、服装を工夫して通気を良くしたり帽子や日傘を使用しましょう。

水分補給はこまめに計画的に！

のどが渇いてから水分補給をするのではなく、意識的に水分補給を心がけましょう。

暑さに身体を慣らしていく！

ウォーキングなど運動をすることで汗をかく習慣を身に付けるなど、暑さに強い体をつくりましょう。

■ 図表1－3－4　過去５年間の熱中症救急搬送人員数

年	搬送人員（人）
令和元年	6,094
令和２年	5,955
令和３年	3,594
令和４年	6,321
令和５年	7,517

（4）地域別救急出場件数

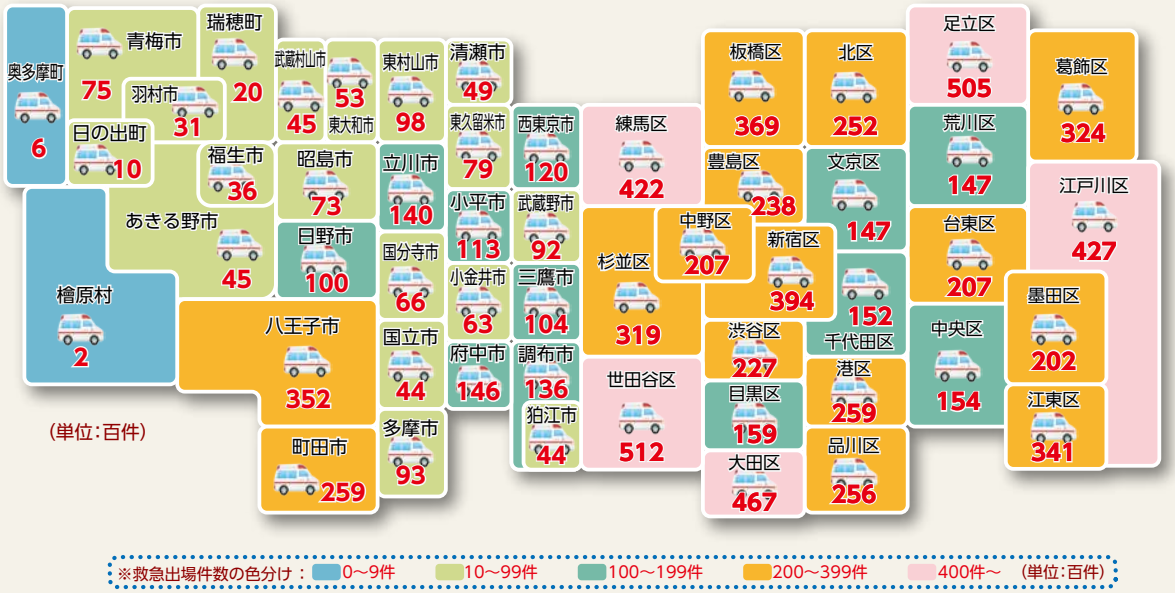
23 区で救急出場件数が多いのは世田谷区、多摩地区で救急出場件数が多いのは八王子市となっています。各区市町村別の救急出場件数は、「附属資料４　統計表（312 ページ）」をご覧ください。

■ 図表1－3－5　地域別出場件数上位５位

23 区	令和元年		令和２年		令和３年		令和４年		令和５年	
	区	件数	区	件数	区	件数	区	件数	区	件数
1	世田谷区	45,424	足立区	41,227	足立区	42,443	足立区	50,057	世田谷区	51,224
2	足立区	45,334	世田谷区	40,501	世田谷区	41,962	世田谷区	48,574	足立区	50,469
3	大田区	41,758	大田区	37,167	大田区	38,446	大田区	43,440	大田区	46,672
4	江戸川区	38,391	江戸川区	35,550	江戸川区	36,020	江戸川区	41,464	江戸川区	42,748
5	練馬区	37,413	練馬区	34,035	練馬区	35,595	練馬区	41,072	練馬区	42,208

多摩地区	令和元年		令和２年		令和３年		令和４年		令和５年	
	市区町	件数	市区町	件数	市区町	件数	市区町	件数	市区町	件数
1	八王子市	30,643	八王子市	27,735	八王子市	28,521	八王子市	34,139	八王子市	35,170
2	町田市	21,975	町田市	19,763	町田市	20,950	町田市	24,628	町田市	25,925
3	府中市	13,039	府中市	11,451	府中市	11,584	府中市	13,837	府中市	14,572
4	立川市	11,963	立川市	10,717	立川市	11,111	立川市	13,167	立川市	14,023
5	調布市	11,725	調布市	10,468	調布市	11,069	調布市	12,690	調布市	13,561

■ 図表1－3－6　区市町村別救急出場件数（概数）の状況（令和５年中）



コラム

救急機動部隊

救急需要に合わせ、待機場所を変更する救急隊

消防署に待機している通常の救急隊と違って、時間帯等によって変化する救急需要に合わせ、待機場所を変更する救急隊です。救急需要の高い場所付近に待機することで、早く現場に駆けつけることができるとともに、感染症、NBC災害、多数傷病者等、様々な救急事案に対応します。

令和元年10月に部隊を拡充し、日中は丸の内及び幡ヶ谷の各エリアに、夜間は新宿及び六本木の各エリアにそれぞれ2隊の救急隊が待機しています。

コラム

救急車ひっ迫アラート

救急車ひっ迫アラートとは

救急要請が増加し、非常用救急小隊の編成が必要となる場合等、救急出場体制のひっ迫度合いをお伝えするとともに、救急車の適時・適切な利用を強く訴えかけることを目的としています。

令和5年中の東京消防庁救急隊の出場件数は、前年から46,236件増え、918,311件でした。また、救急搬送された方のうち初診時医師により軽症（軽易で入院を要さないもの）と判断された割合は54.2%で半数以上を占めています。

救急車がひっ迫すると…？

救急出場件数が過去最多の令和5年は、救急車が現場に到着するまでに平均で9分54秒かかっています。

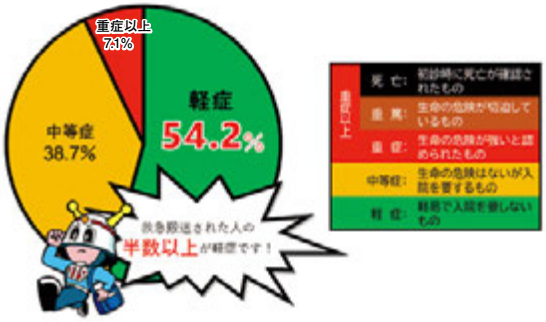
救急車の要請が多く、近くの救急車が出場している場合、遠くにいる救急車が出場することになり、到着までに時間がかかる場合があります。

↓救急車ひっ迫アラートが発令されていることを示しています

↓救急車ひっ迫アラートを発令する可能性が高まっていることを示しています

↓救急車ひっ迫アラートが発令されていないことを示しています

▲ 救急車ひっ迫アラート

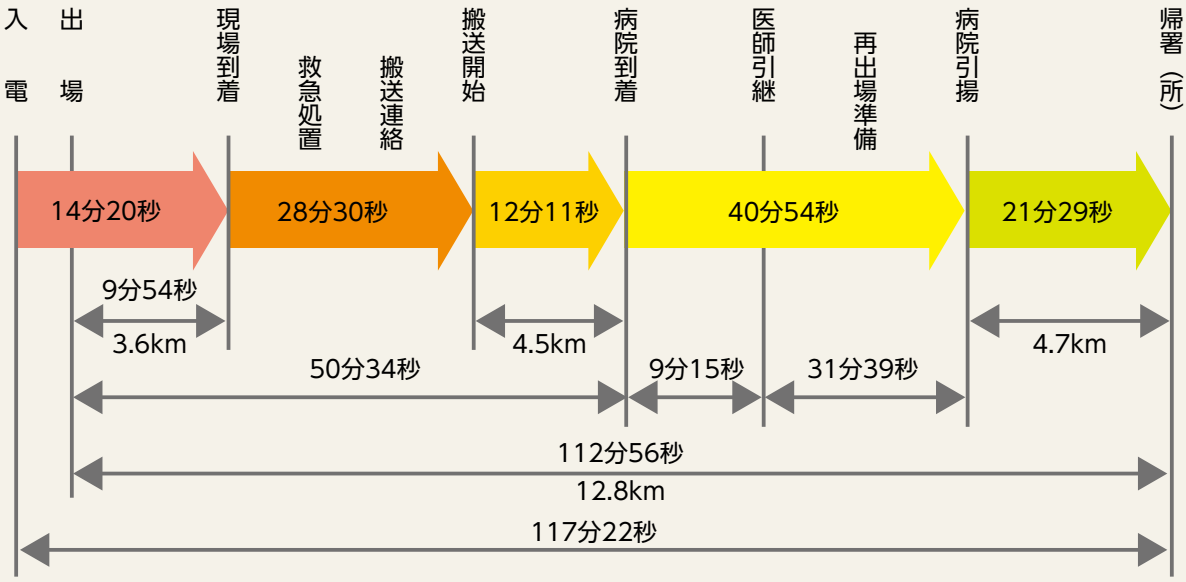


▲ 救急搬送された人の半数以上が軽症です

（5）活動時間・距離

令和５年中の救急隊が入電してから帰署（所）するまでの救急活動平均所要時間は 117 分 22 秒で、平均走行距離は 12.8Km です。（図表1－3－7）

■ 図表1－3－7　救急活動時間と走行距離



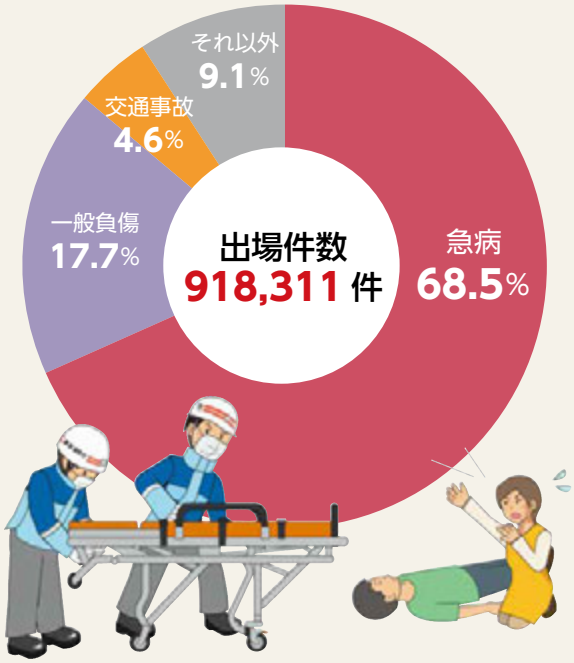
（6）事故種別ごとの出場件数

急病、一般負傷、交通事故で全救急出場件数の約９割を占めています。（図表1－3－8）

■ 図表1－3－8　事故種別出場件数

事故種別	件数	割合
急病	629,395	68.5%
一般負傷	162,950	17.7%
交通事故	42,507	4.6%
それ以外	83,459	9.1%
合計	918,311	100.0%

「それ以外」の内訳	件数	割合
転院搬送	42,814	51.3%
自損行為	7,332	8.8%
労働災害事故	5,518	6.6%
加害	5,475	6.6%
運動競技事故	5,414	6.5%
火災事故	3,514	4.2%
資器材等輸送	618	0.7%
水難事故	568	0.7%
医師搬送	168	0.2%
自然災害事故	14	0.0%
上記以外	12,024	14.4%

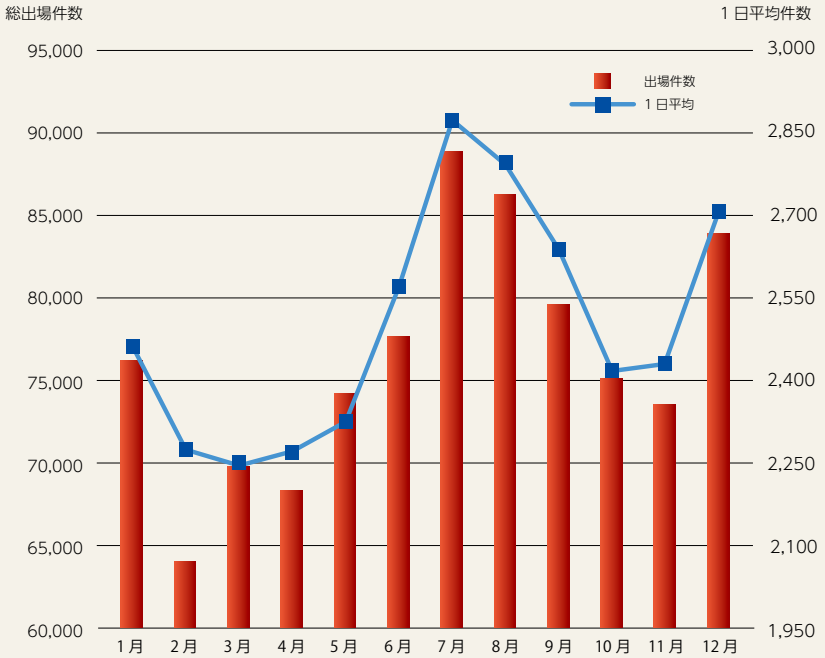


（7）月別・時間帯別出場件数

ア　月 別

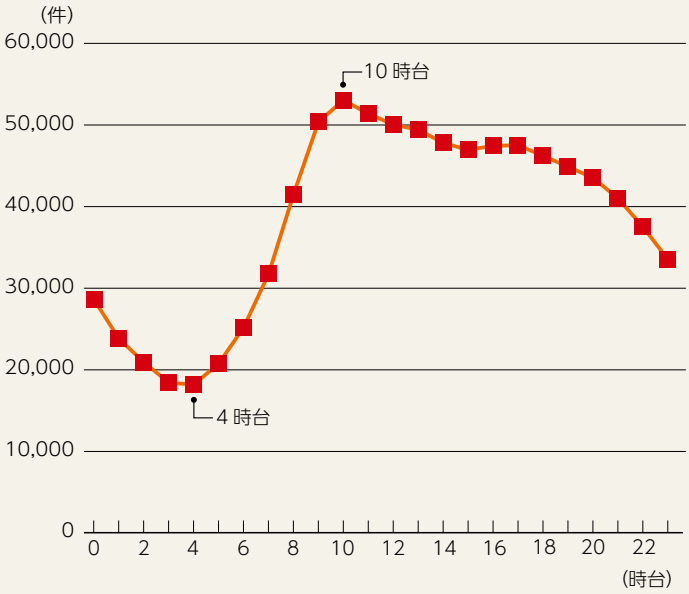
■ 図表1－3－9　月別出場件数

月	出場件数	1 日平均
1 月	76,281	2,461
2 月	64,022	2,287
3 月	69,815	2,252
4 月	68,324	2,277
5 月	74,250	2,395
6 月	77,746	2,592
7 月	89,022	2,872
8 月	86,411	2,787
9 月	79,673	2,656
10 月	75,165	2,425
11 月	73,583	2,453
12 月	84,019	2,710
合計	918,311	2,516



イ　時間帯別

■ 図表1－3－10　時間帯別出場件数



時間帯	出場件数	構成比 (%)
0 時台	28,551	3.1
1 時台	23,749	2.6
2 時台	20,891	2.3
3 時台	18,379	2.0
4 時台	18,164	2.0
5 時台	20,722	2.3
6 時台	25,156	2.7
7 時台	31,695	3.5
8 時台	41,432	4.5
9 時台	50,296	5.5
10 時台	52,933	5.8
11 時台	51,295	5.6
12 時台	49,953	5.4
13 時台	49,329	5.4
14 時台	47,731	5.2
15 時台	46,851	5.1
16 時台	47,366	5.2
17 時台	47,429	5.2
18 時台	46,153	5.0
19 時台	44,802	4.9
20 時台	43,465	4.7
21 時台	40,966	4.5
22 時台	37,488	4.1
23 時台	33,515	3.6
合計	918,311	100.0

コラム

デイタイム救急隊

デイタイム救急隊の概要

○現場到着時間を分析すると、夜間と比較し、日中は長くなる傾向にあります。
⇒日中の救急需要が多い地域で現場到着時間を短縮

○令和元年５月に池袋消防署で運用を開始し令和６年４月１日現在、１２隊で運用しています。

○育児休業期間終了後等の救急資格を保有する職員が、職場復帰後、すぐに交替制（２４時間）の救急隊へ勤務することは必ずしも容易ではありません。
⇒交替制勤務が困難な救急資格を有する職員の活躍

○池袋デイタイム救急隊に電気救急車（ＥＶ）を初めて導入
車両には、電動ストレッチャー等を備え、体格の大きな傷病者や重体重の傷病者への対応力を強化しています。

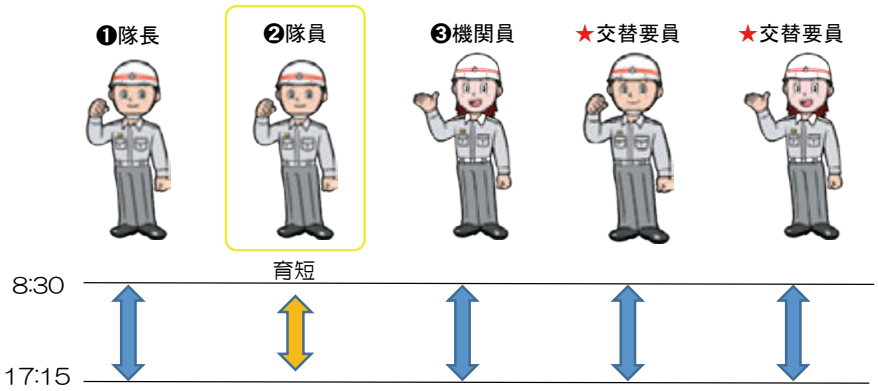
▲ 車両

▲ 電動ストレッチャー

運用イメージ（1 隊 5 名配置の一例）

○運用時間
平日の８時３０分から１７時１５分までの間

５名配置構成例



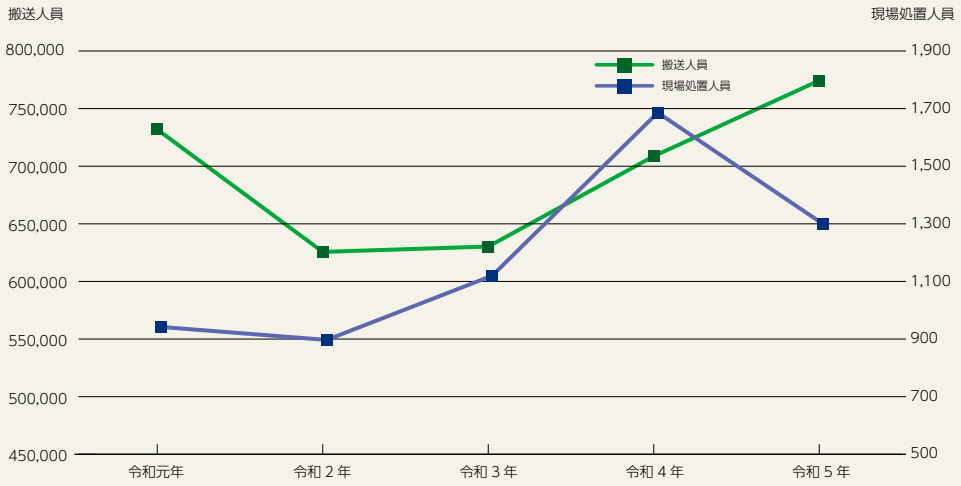
〈凡例〉育短…育児短時間勤務等の取得者

2　救護・搬送人員の状況

（1）救護・搬送人員過去５年間の推移

令和５年中の搬送人員（医療機関等へ搬送した人員）は774,370人、現場処置人員（救急現場で救急処置を実施したが、医療機関へ搬送しなかった人員）は1,299人となり、合わせた救護人員は775,669人となっています。（図表1－3－11）

■ 図表1－3－11　救護・搬送人員の推移【人】



	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
搬送人員	731,900	625,639	630,287	708,695	774,370
現場処置人員	942	897	1,120	1,686	1,299
救護人員計	732,842	626,536	631,407	710,381	775,669

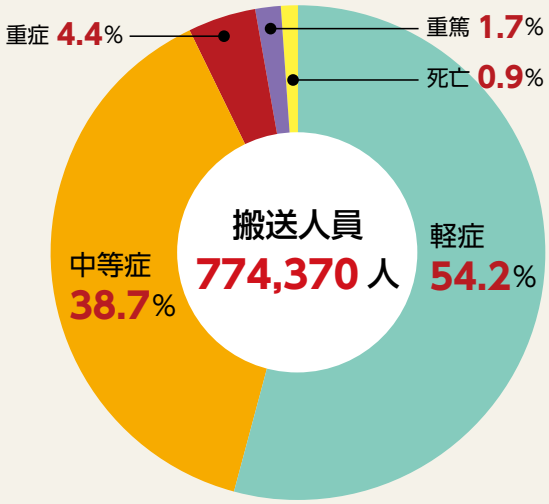
（2）搬送人員

ア　初診時程度

搬送人員のうち半数以上が軽症で、中等症と軽症を合わせると９割を超えています。（図表1－3－12）

■ 図表1－3－12　初診時程度別搬送人員

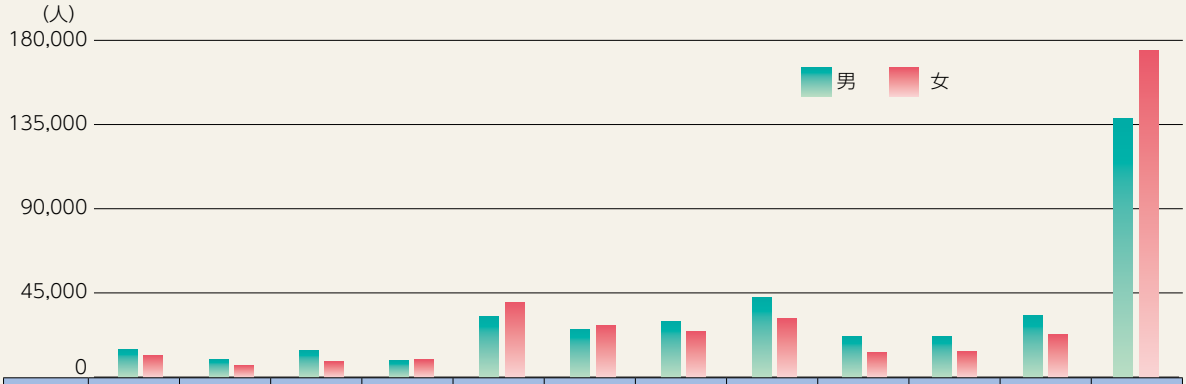
初診時程度	搬送人員（人）	割合
軽症	419,723	54.2%
中等症	299,724	38.7%
重症	34,282	4.4%
重篤	13,546	1.7%
死亡	7,095	0.9%
搬送人員計	774,370	100.0%



イ　年齢層

令和５年の搬送人員を年齢層別でみると、75 歳以上の割合が最多となっています。(図表1－3－13)

■ 図表1－3－13　年齢層別・性別搬送人員

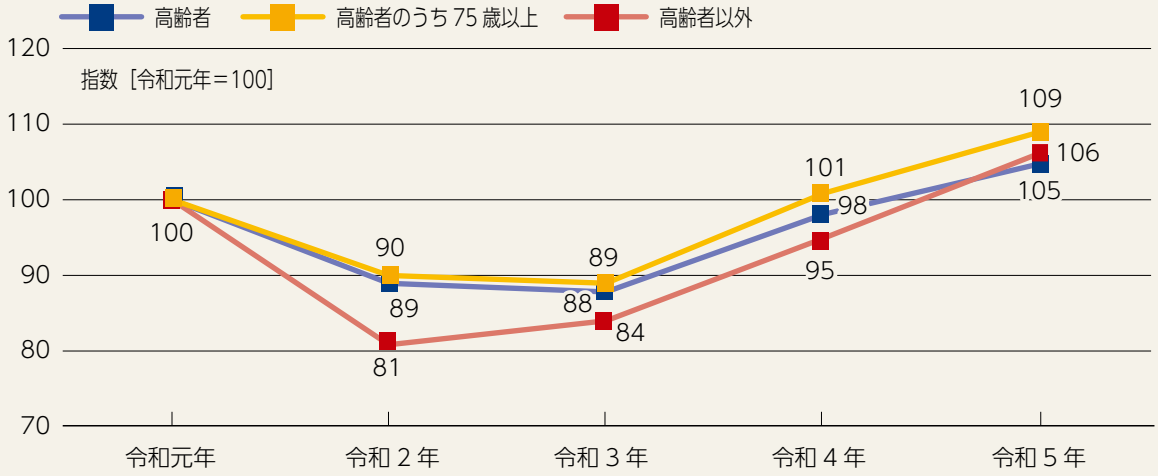


年齢	0～2	3～5	6～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70～74	75 以上
男	14,750	9,445	14,075	8,654	32,535	25,558	29,779	42,493	21,705	21,789	32,982	138,114
女	11,563	6,356	8,159	9,153	40,053	27,583	24,258	31,087	13,351	13,523	22,566	174,839
合計	26,313	15,801	22,234	17,807	72,588	53,141	54,037	73,580	35,056	35,312	55,548	312,953

ウ　高齢者搬送人員過去５年間の推移

65 歳以上の高齢者の搬送人員は、403,813 人で、全搬送人員の 52.1%を占めています。(図表1－3－14)

■ 図表1－3－14　高齢者搬送人員の推移



	令和元年	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年
全搬送人員	731,900	625,639	630,287	708,695	774,370
高齢者	383,856	342,085	337,224	376,868	403,813
高齢者のうち 75 歳以上	286,061	256,451	254,273	288,752	312,953
高齢者以外	348,044	283,554	293,063	331,827	370,557
高齢者の割合	52.4%	54.7%	53.5%	53.2%	52.1%

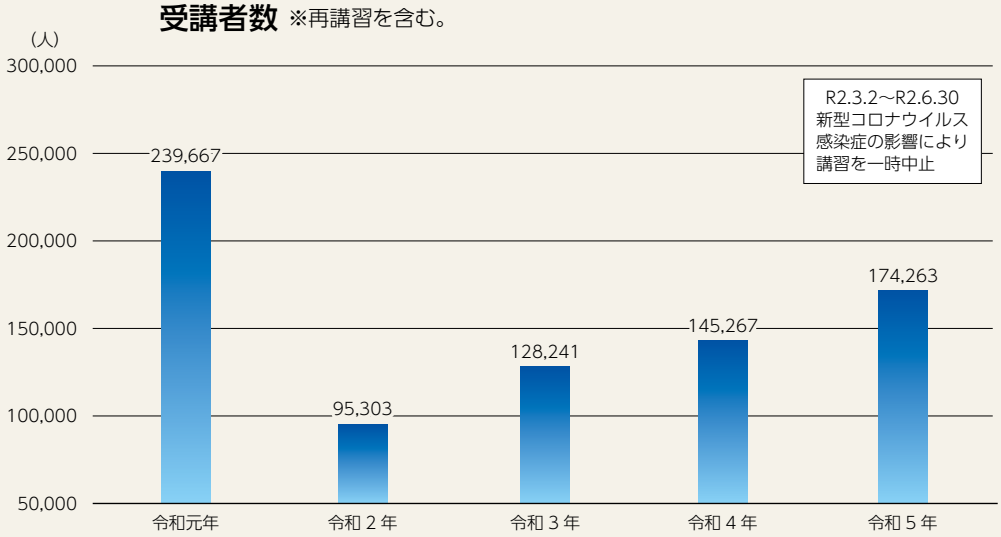
3　都民等による応急手当の実施状況

（1）救命講習受講者の推移

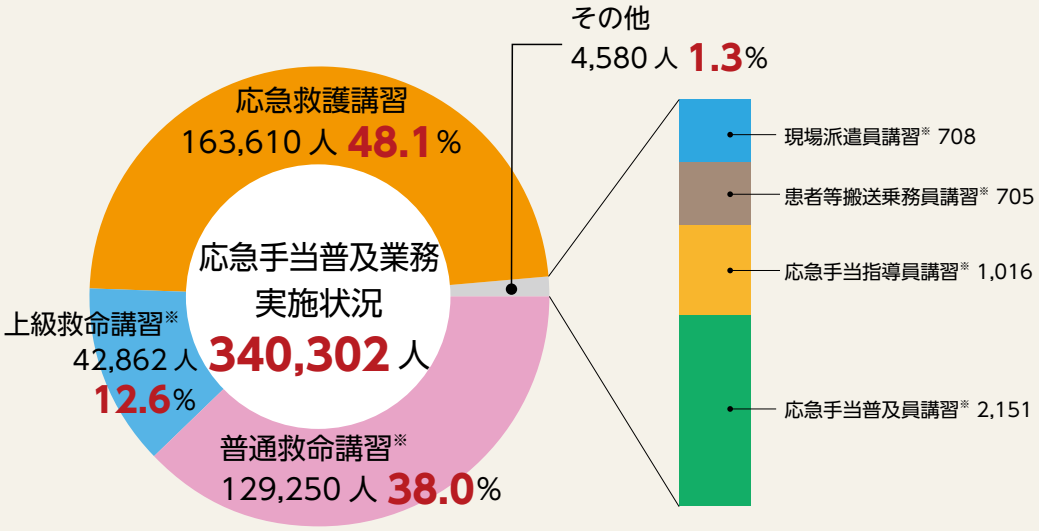
令和５年中は、救命講習(普通救命講習※・上級救命講習※・応急手当普及員講習※)の受講者数は 174,263 人となりました。また、応急救護講習等を含めると 340,302 人となりました。(図表1－3－15、16)

救急現場に居合わせた人（バイスタンダー）の目撃がある心臓機能が停止した傷病者に対しバイスタンダーが胸骨圧迫や AED 等による応急手当を実施した場合（11.5%）と実施しなかった場合（4.0%）では、傷病者の１ヶ月後の生存率は約3倍の差が生じています（令和５年中）。救命講習を受講し、応急手当の知識を身につけましょう。

■ 図表1－3－15　救命講習（普通救命講習※・上級救命講習※・応急手当普及員講習※）受講者数 ※再講習を含む。



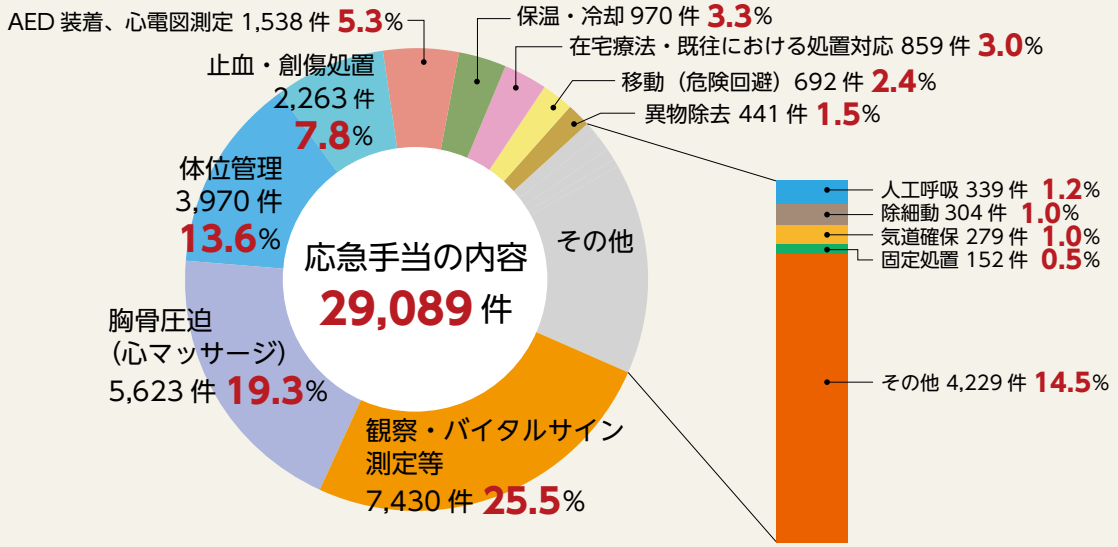
■ 図表1－3－16　応急手当普及業務実施状況



（2）応急手当の状況

傷病者に対して、家族、友人、近隣者などにより、救急隊が到着するまでの間に、29,089 件の応急手当が実施されています。(図表1－3－17)

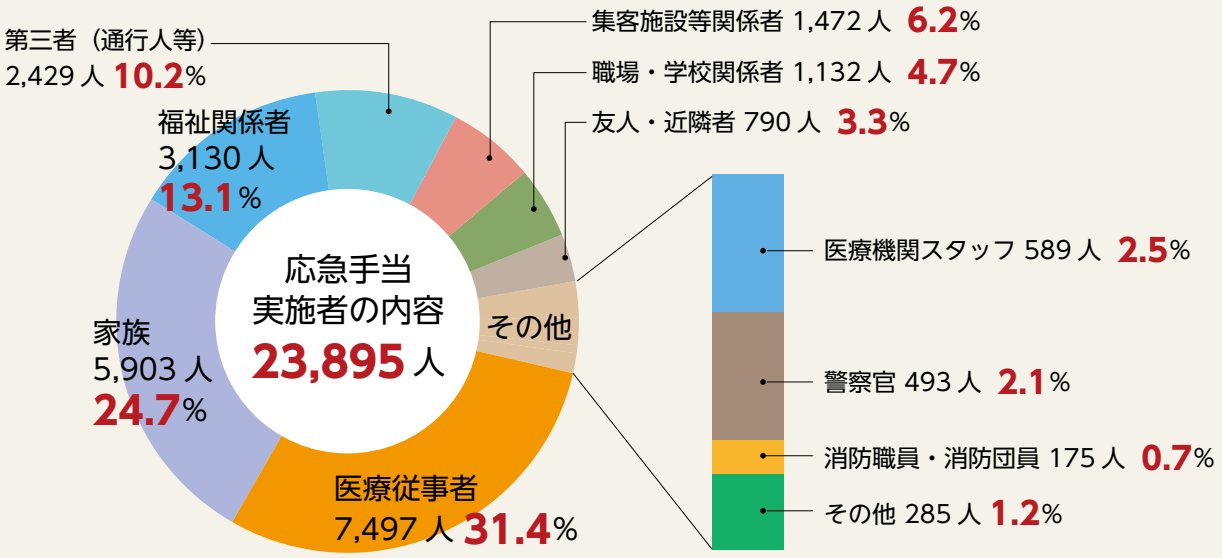
■ 図表1－3－17　都民等による応急手当の内容



（3）応急手当実施者

都民等による応急手当を実施者別にみると、医療従事者に次いで家族が２番目に多くなっています。大切な人の命を救うために救命講習を受講しましょう。(図表1－3－18)

■ 図表1－3－18　応急手当実施者



4　「＃7119」東京消防庁救急相談センターの現況

急な病気やけがをした際に、病院へ行くか、救急車を呼ぶべきか迷った時や、どこの病院に行ったらよいのか分からない時などに電話で相談を受け、緊急受診の要否や適応する診療科目、診察可能な医療機関等について相談者にアドバイスを行います。

（1）受付状況

過去３年間の受付状況は次のとおりです。

令和５年は、歴代最多件数を記録しました。(図表1－3－19)

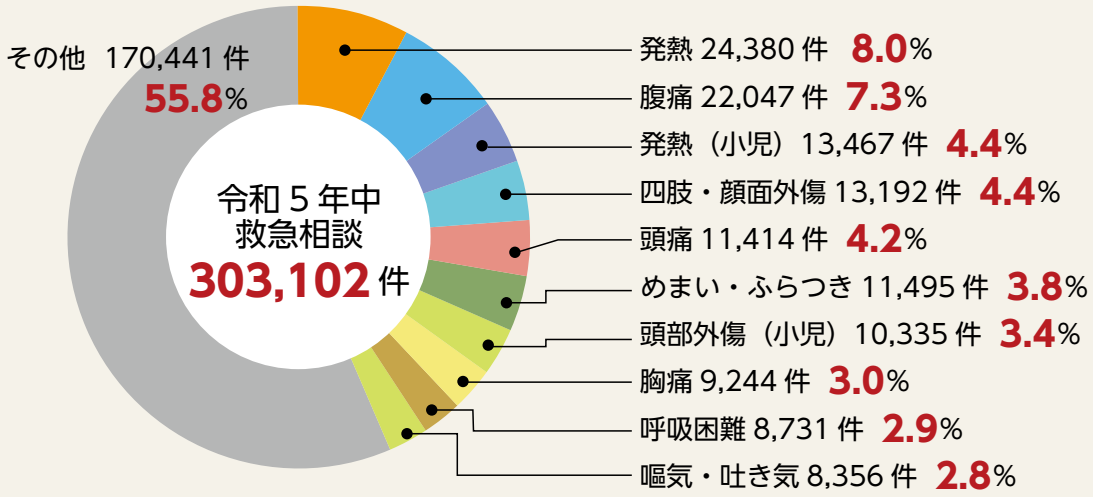
■ 図表1－3－19　受付状況

年　次	総受付	医療機関案内	救急相談	相談後救急要請	相談前救急要請	その他
令和５年	467,267 件	161,460 件	303,102 件	54,201 件	2,269 件	436 件
令和４年	439,507 件	175,822 件	262,036 件	42,674 件	824 件	825 件
令和３年	362,392 件	124,228 件	236,757 件	38,755 件	719 件	688 件

（２）救急相談の内訳

令和５年中の救急相談の内訳は次のとおりです。発熱に関する相談が最も多く、令和５年中は成人と小児を合計し約 12%を占めます。（図表1－3－20）

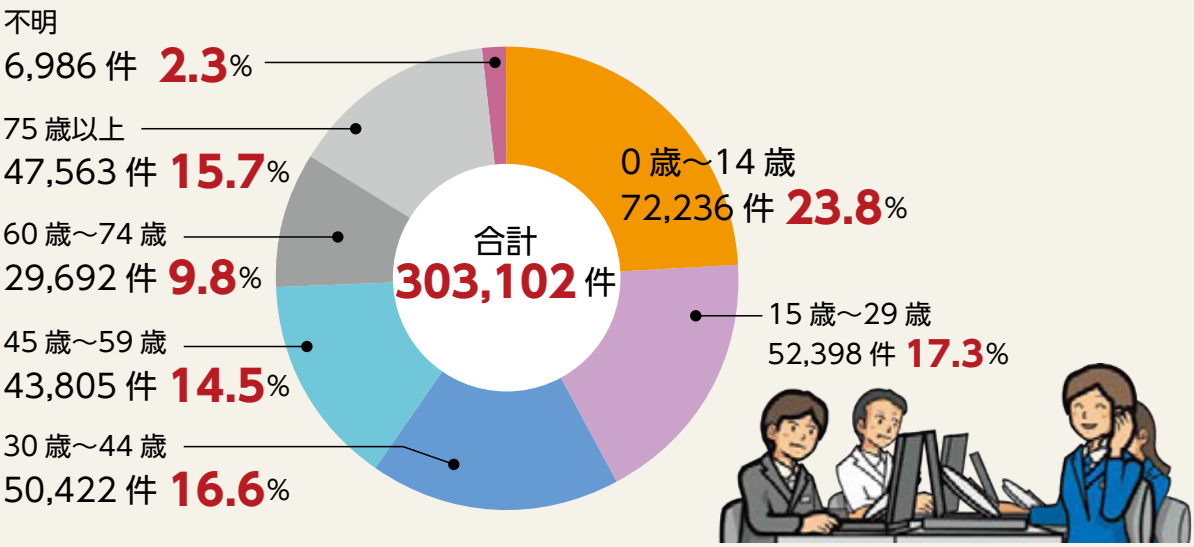
■ 図表1－3－20　救急相談の内訳比



（３）相談対象者の年齢

令和５年中の相談対象者の年齢構成比は次のとおりです。０歳から 14 歳の相談対象者の割合が多くなっています。（図表1－3－21）

75 歳以上の相談対象者の年齢構成比は 15.7%となっていますが、救急車で搬送した方の年齢構成比は 75 歳以上の方が全体の 40.4%を占めています。（81 ページ参照）

救急車を呼ぶか迷ったときは「＃ 7119」をご利用ください。

■ 図表1－3－21　相談対象者の年齢構成比